



諸國物語番會拾遺

地



一休諸國物語圖會拾遺



此の巻

ハツ指と程敷の事

○冬にの國ハツ指を名うてお入名指をそのうて業平と
 うきつたこのめ文字をゆのよふおそそ前よりまはらるとや
 一休よりりりり名おふやツ指をなまはらるとやツ指をきん
 そりりの里人よあんなまのせとゆらんがらふハ指はあま
 てかきつたことなるとあらる口とまを國とて思てうまはら
 いづきとやらうともえもつとあまふなうなまはら
 おとらまきとらつりうけうけうけう
 田をうりあうかえり葉はな
 とあそえとらうとる

一休圖會拾遺卷下

瓢箪の舟の事

○一休和尚の舟人拂屋の志願もそとそ一葉舟

一 け度日本老和尚一休二明六通を済く

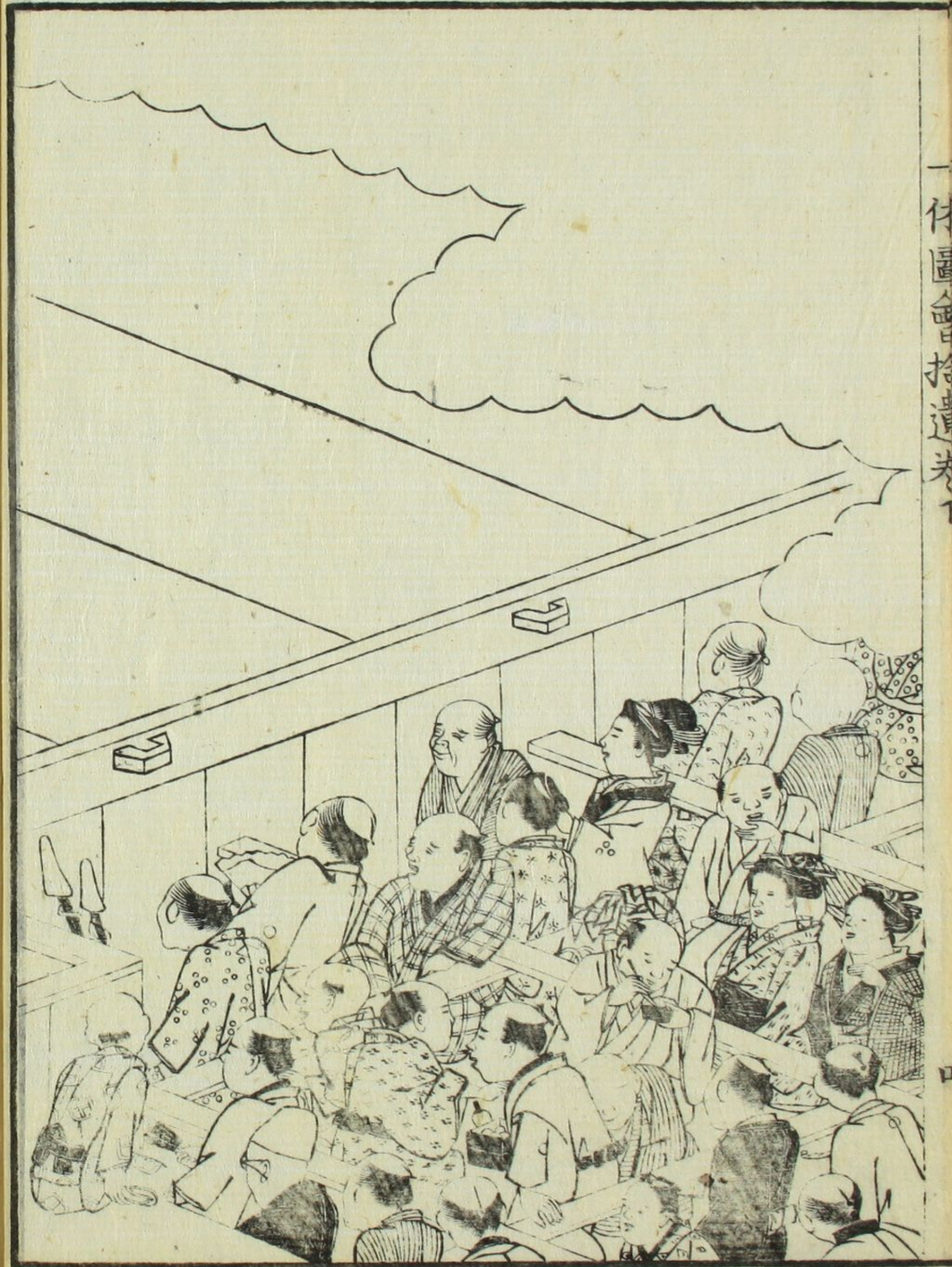
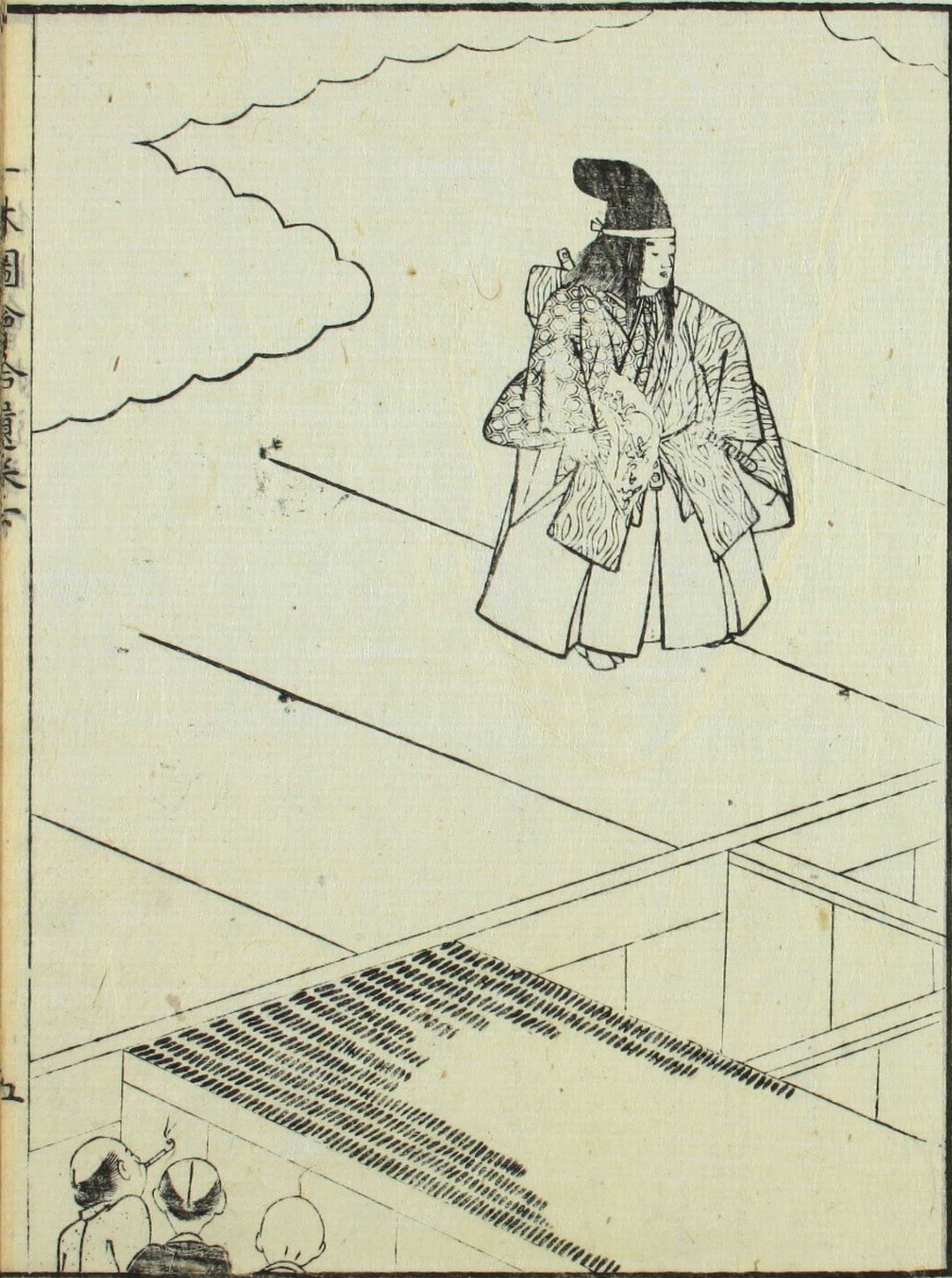
瓢箪としつう返す 土の舟より

今月今日よりそとそ一

とわらぐと... 舟と... 北より南と

花めづりも... 舟と... 舟と...

○ 舟と... 舟と... 舟と...



多勢のせんぼうのくちくち大城らんよりやきざらむしけ
 ようやくあひくくこゑもやうらうらうとくくあひいひをせ
 あつらんぬ七人のあがき若きもあひくくうらうらう出せや
 かのあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 けいけいあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 りやつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 赤くく又あつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 ンやあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 三つ今日あつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 多入あつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 多くあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと

又前日のくくあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 あつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 一休の半かながとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと

文殊の四山は半

○ある人あつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 あつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 の事あつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 孫あつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 較の衣あつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 のあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと
 町人あつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬとあつらんぬと

此國をよみ置まをどしむらうももの身より文のこを名
 令ら候のちをとりしよまこふあをそらへるるをせけりあうし
 ともいひがきつ時ゆふ藤の西國にあまう万民のうまひをさうし
 ぶるるあひなりのしほをさうしあひさひしほく酒を清はし
 度く日本申すおののちの文のあをさくそにすれりいひ
 文
 抄のたうのしひの文のあひさひの文のあひさひの文
 浩操のあをさくそをさくそをさくそをさくそをさくそ
 万まもさひけりこと仰しき
 湯の酒乃句を

○一休和為山右ふんまきへばうますとこきく山出入てしう申す
 ちこそまのあらみ舞まひしちしうまうの酒とまめりあま
 しこらへるるの言あやせくしあ

山右ふんまきへばうますとこきく山出入てしう申す
ちこそまのあらみ舞しちしうまうの酒とまめりあま
 とほりしうらあやせしや
 山右ふんまきと句をの事

○一休和為山右ふんまきへばうますとこきく山出入てしう申す
 いひるいひる普化傳こませうのすうふしなるり尺八はちを吹くをさう
 うつを原はらと和為わゐとえあうる山右ふんまきとあひさひしうま山伏
 あしめ時ときししうあやせしうあやせなるり普化傳こませうのちあひ
 ゆらあやせらるる和為わゐとえあうる山右ふんまきとあひさひしうま山伏
 山伏ふんまきしうらあやせらるる山右ふんまきとあひさひしうま山伏
 山右ふんまきとあひさひしうま山伏ふんまきしうらあやせらるる山右ふんまきとあひさひしうま山伏

えんげし〜さくば〜

摩訶不思議の事とて待たし海が舟

○一休和尚のかるねなる事とてよくあつらん人の化をせん

とて居らん事とて摩訶不思議の事とて待たし海が舟

あつらん事とて摩訶不思議

あつらん事とて摩訶不思議

あつらん事とて摩訶不思議

とあそび〜又烟の悪〜待を一首也

らひ〜

冉〜烟〜長〜月〜

羊存ふ〜笑慕敵〜人慢〜

不初の古佛乃年

○成人不初明の古佛と秘蔵〜

〜一休〜安〜あ〜

てや〜一待と織〜

合時志不明〜生付行輪目口法

一生不犯と念者〜寺外寺同儀廣也

〜七〜絶句と作〜

其のる縁と縁〜

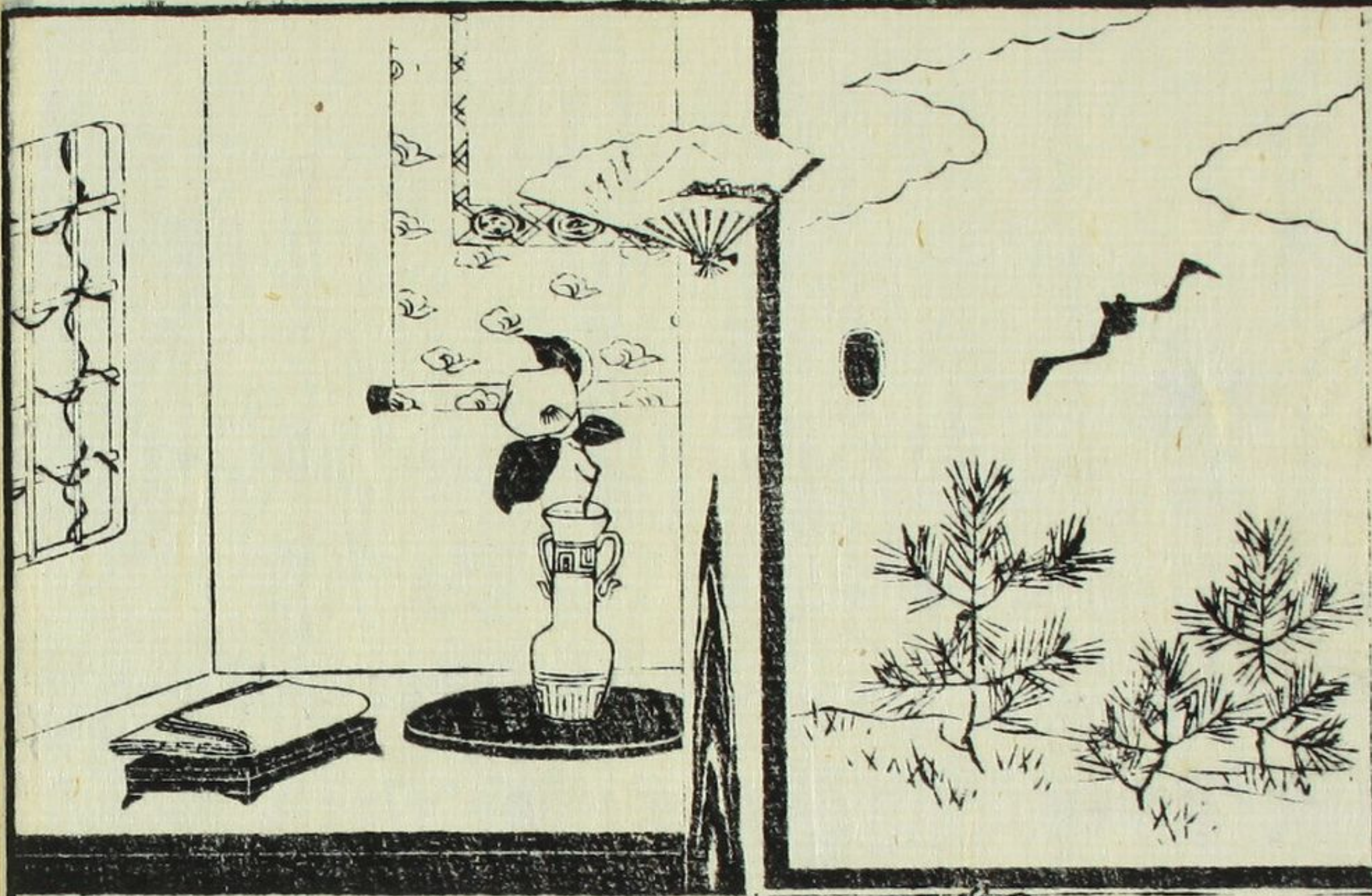
〜中〜

大空〜

〜

生初死後と〜

○一人一休和尚の生遊の〜



佛國會拾遺類



鷹峯


くもづとらるる事とつらゆりすまそ

去のうららちあふちあふちいづる

天かち連つたもまふ家も修も

一休かきり

親か連つた定家も修もあふぬ親

横川

あもうげのうらめとまふいづる

一休

おもつともちかきりいづる

口

をの中いあふちとらめをさき

まのうららちいづる

○ 沖一代のうららちいづるの多うららちをあふちとらめ

今すまふいづるをさきあふちとらめ

於一谷

壽永三年三月天 九部冠者宗兵衛

源平合戦中計 海産死人裁百子

有口

有口石合伴 不離色相 絶満縁

茶谷大海 江河水 吐出銷員 一味源

顔

身亦洗経 妙度地 樹頭樹底 妙音多

林間花名 満善花 中る 夏管 小秋 如

又對一谷

步落平家年教
教並結谷進連速

落髮時

東山下玉毛
移得天台去

對男根

我以貪深八寸
一生不觸美人手

對那須与市

与一源平才一弓
養月新念鞍馬上

對信川先傳

賴朝大將祇在
生食此庶善後

對香

垢耶香耶是外物
誰為人食十分肥

對

有法有河之合浪
面古他山若僧連

對

日夜心長志
夢中拏手欲お決

九部冠者大富名
一船熱向上時

今日出家作比丘
平生誰與一時休

夜來抱汝川之床
後鼻深中日月長

判友石為村如切
七花八裂府去中

信川先傳給之
握原源去一鞭連

之來又來更骨
瘦僧一担渡生涯

之來初如大德人
味中藥月性氣頻

夜來忘藥外之床
被暖噴涕又仍物

日
花咲花の光
花時花亦の情

花新花夢中
花落花過誰

日
生天如仁客思
有力秋風ふ烈拂

灯下吟詩被十分
物笑演新楚山

級在中央
然如三酒此矣水

級以味流比
水出推流比

布袋贊
二布袋作袋取
字一

人食後便
大食後便

漢父
學多多線失中
湘江雲面楚書月

漁秋一曲價
多恨風流

辞在
投素國裏
今日新途去浪海

東海見線更
依時空道克何之

日
東海見線
相見身上一原真

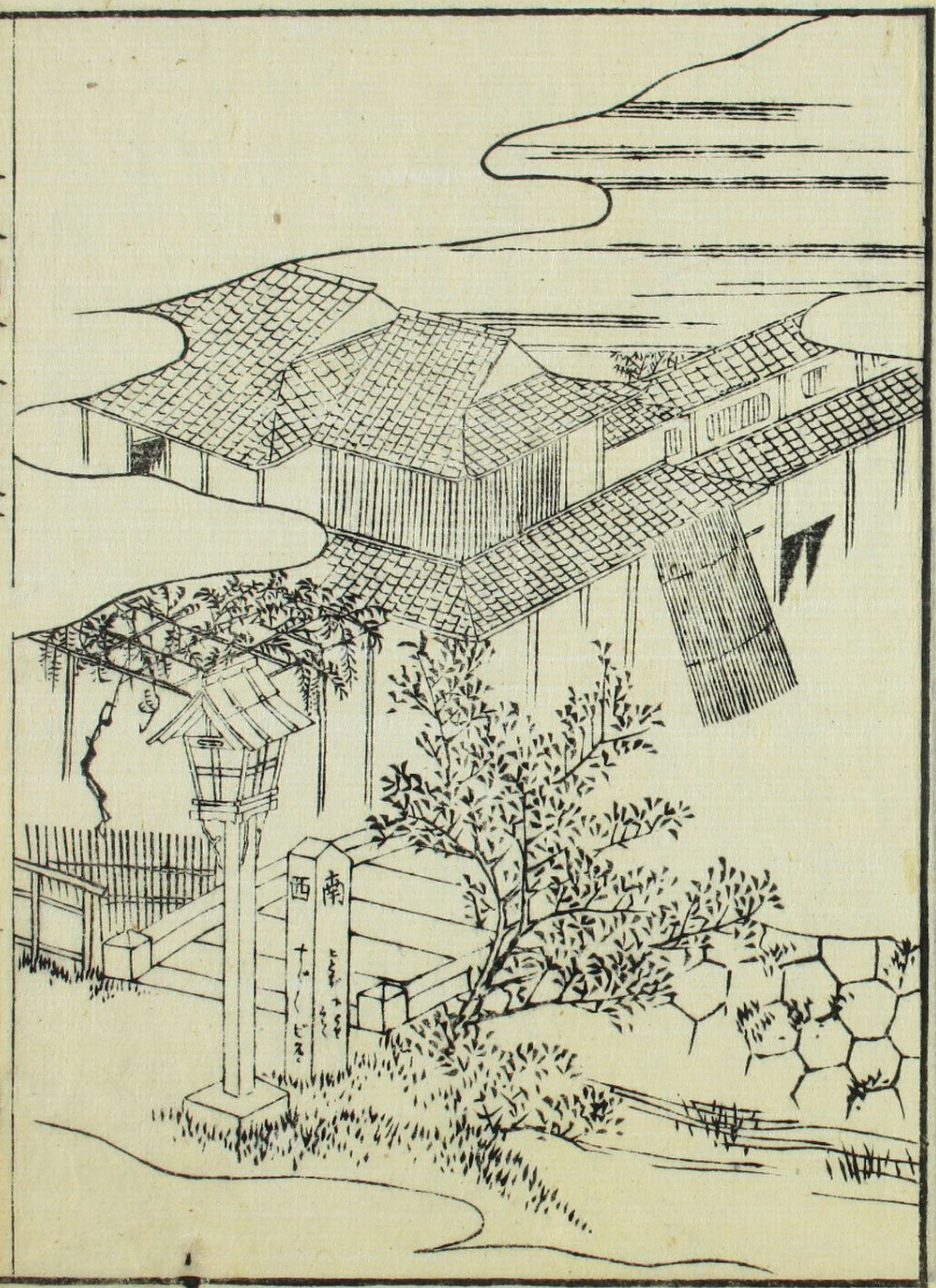
西物不辨
難寫封書小

日
武信者
飛來橋場雲重

不愛人天大
情長在明賦

一休園會拾遺卷下

のりまはけり新ちのもつ人月あま
 ちるのあまておはけりしりく
 ちのちり一住和也新ちをより
 あまのちりしりくかたかたの
 ちりかてけりしりく
 ちりかてけりしりく
 ちりかてけりしりく
 ちりかてけりしりく
 ちりかてけりしりく



惘の秋

くらりたるあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 此こそわづらふものなほさしつらさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 りとららざるまきほら又らるる春のさびしきものよ
 ぬくもつる秋のなほさびしきものよ
 かろづらふあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 かりをわづらふあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 をわづらふあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 めなうへはあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 をわづらふあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 かなしきあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 なほさしつらさすまはらぬあゝのさびしきものよ

ららりたるあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 生死のあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 契止しつらさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 國つらさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 焼くもあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 志願のあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 くらりたるあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 ひびきたるあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 笑のあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 さくらんぼのあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 くらりたるあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 さくらんぼのあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ
 くらりたるあゝのこころさすまはらぬあゝのさびしきものよ

二日月のふとまうけく後まうけとまうけまうけありぬ月
 ころろふ笑うささるるをんをふかかろうらまをそつぐん
 清ねもなひかろりおほいとのとまひいづらりい
 幸しくふまらしのそひりのみら茶と豆方のうつらふたあがれ
 月しり家うらいううとる時かかろうおせのすぬぬく
 ちんちんやい雲のなまはなしてかたはらま世のふまうま
 寺と建をたなうりくまうたまの志ひやまうん
 志ぐぐふつさのてあかろわやまのかぞ縁もはるま
 ちあわらうままうけくふかろりもふまうけのちんちん
 んまうけくはまのままらまうけく柳らこまうけくはるま

○ 新編一休和尚西海書入あかま目うし料

なせり入かろまは後まうけくまうけくまうけく
 まま書まの祖師知識方のあはあまのま
 ひまうけくかろままうけく念はまうけく文
 性者今あまうけくまうけくまうけくまうけくまうけく
 めまうけくまうけくまうけくまうけくまうけくまうけく
 伸四らんまうけくまうけくまうけくまうけくまうけく
 如今日まうけくまうけくまうけくまうけくまうけく
 んまうけくまうけくまうけくまうけくまうけくまうけく
 天地いけんまうけくまうけくまうけくまうけくまうけく
 車まうけくまうけくまうけくまうけくまうけくまうけく
 く西名あまうけくまうけくまうけくまうけくまうけく

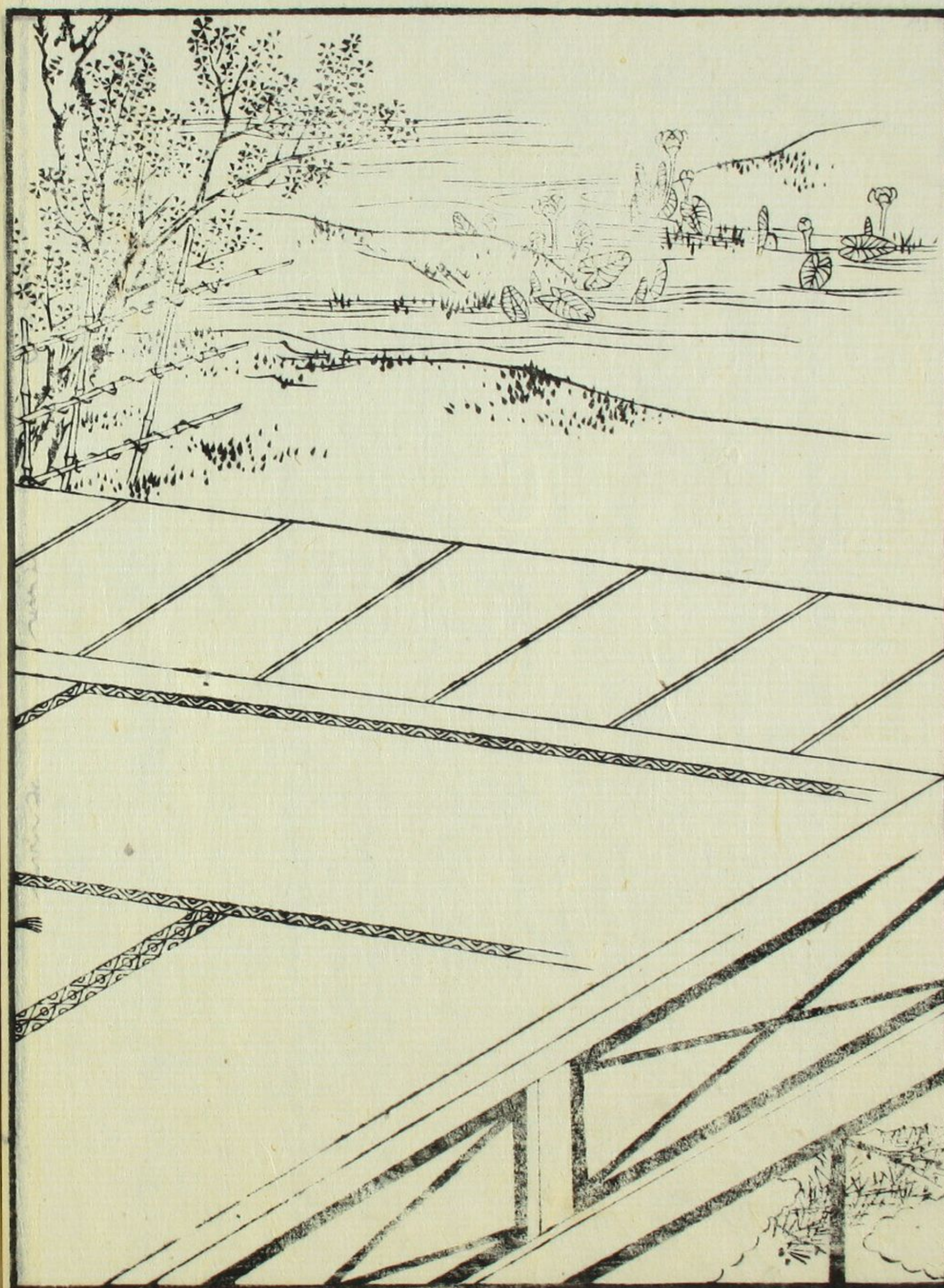
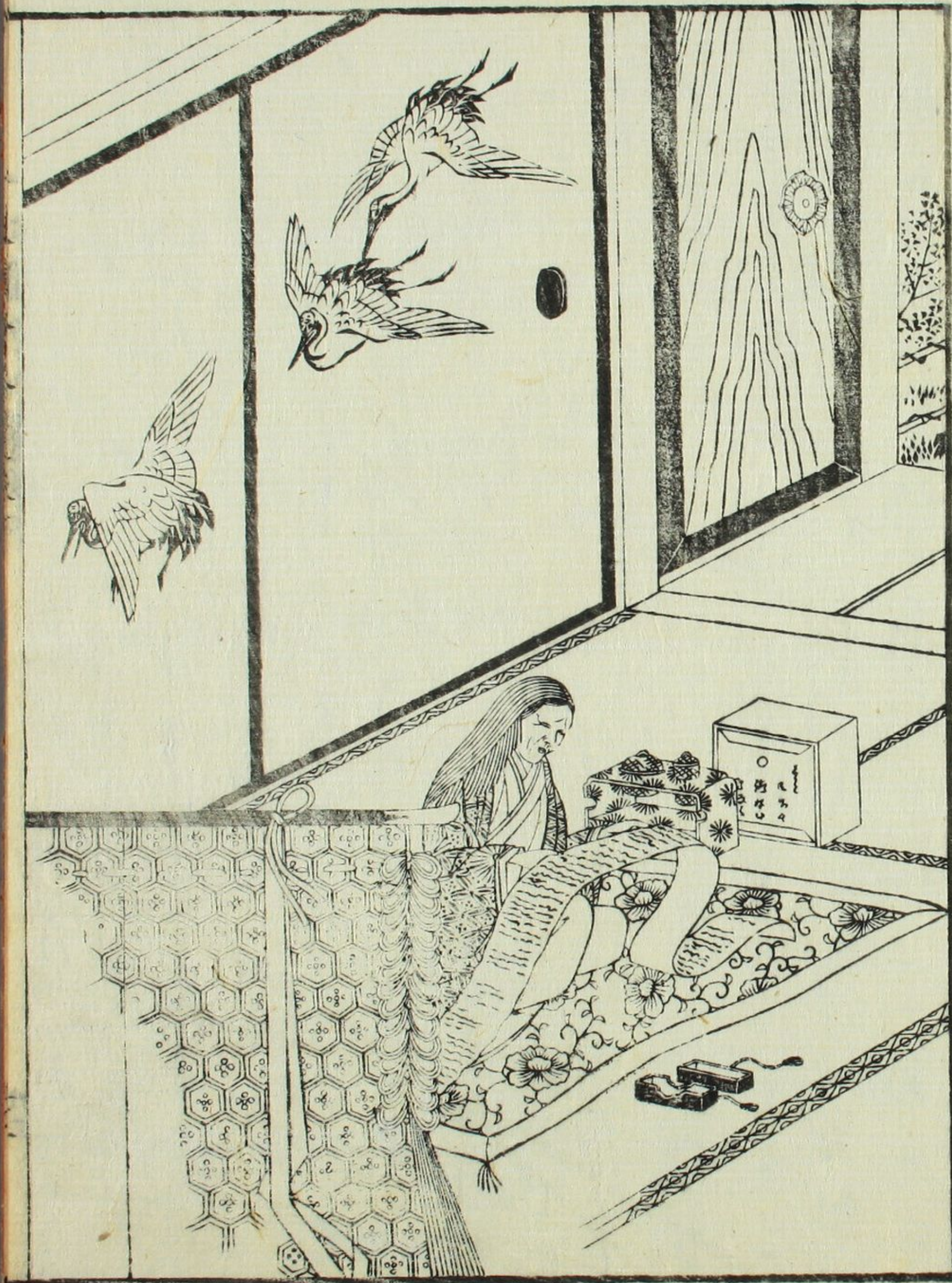
ましめりふ乃こころふんをこころめくもまじつひなき後と
 又まじひをこころと先徳家よりらひゆはゆやうの事
 神教なりこころやゆをわたり名やとならむの事
 大に引中入い教を夢を玉脚と日本かからまき
 四僧のまじりくるまじりやまじり等の四代なりとの
 夢をこころこころののののの

夢の女一四ののののの

つれこころこころののののの

吏人子のあつる事半とまじりこころこころののののの
 こころとまじり死のこころとわこころまじりやこころ
 ばうこころこころの海とまじりむなしくとまじり
 あがこころこころ乃心半とまじりこころこころののののの

こころも人子のあつる事半とまじりこころこころののののの
 こころとまじり死のこころとわこころまじりやこころ
 ばうこころこころの海とまじりむなしくとまじり
 あがこころこころ乃心半とまじりこころこころののののの
 こころも人子のあつる事半とまじりこころこころののののの
 こころとまじり死のこころとわこころまじりやこころ
 ばうこころこころの海とまじりむなしくとまじり
 あがこころこころ乃心半とまじりこころこころののののの



えんぶどう 心こころの縁ゆかり唯ただ心の淨よそとてのぶついでい文ふみ字じの
心こころも乃なほもあらず縁ゆかりはたごころの淨よそも
あつとすおとすたの信しんたつ縁ゆかりづいあるまじふ

ねんがなまをいふまの言ことばあり

くも慈あはれ念ねんのりきくまのせき

けいこのまをふ心こころの縁ゆかりよるふらわらもねんをえまわを
やぶくおし舟田ふねだの心こころもあらずをわら建たてとてつめ
まわすせんすたをせういふ事こともたがやうきまは
くやもまてもはくがきさくうふけなげふら入いれ
わらしもなまへん縁ゆかりの心こころもあらずはわをとも事こと
化くわ生の縁ゆかりふくとぞんくは周縁しゆえんはるい唯ただなると
佛ぶつも心こころもあらず母ははも心こころもあらず七なな年ねんあつと

らまゝ心こころ留とどまをさし静しずむの事こと

をいぶらふえんころりくは川がはすむ月つきの

かゝるあゝをたまたまあ

ひ縁ゆかりをくらふまこところりくは川がはすむ月つきの
の心をすまをさし静しずむの事こと
むもがくをさし静しずむの事こと
事ことありいかにあをさし静しずむの事こと
くもやとまをさし静しずむの事こと
くもやとまをさし静しずむの事こと
もあつとすおとすたの信しんたつ縁ゆかりづいあるまじふ
大だい遊ゆうの文ふみ字じ一切いっせつを佛ぶつのけり

うき事や虚言を教へては

あつらふより教へては

切つて入ると月をわづらふ

んかか山のかげと

くわいせいのうらなひ

あつらふ又は大伴の

あつらふや後世のつ

あうんのつまら

るいせいのうらなひ

るいせいのうらなひ

かつらつらつら

日あめあつら

むせぶがさの

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

いづれもあまはるるにさしつかへなく

うつくしき世のすまやねなりなり

け歌のあらうりりなる大まきまきこころおよ下の人こころ

こころの死のたふそとつとをさへあつまふつがたなり

あまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

あまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

あまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

あまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

あまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

あまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

あまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

あまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

半のあまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

半のあまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

半のあまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

半のあまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

半のあまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

半のあまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

半のあまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

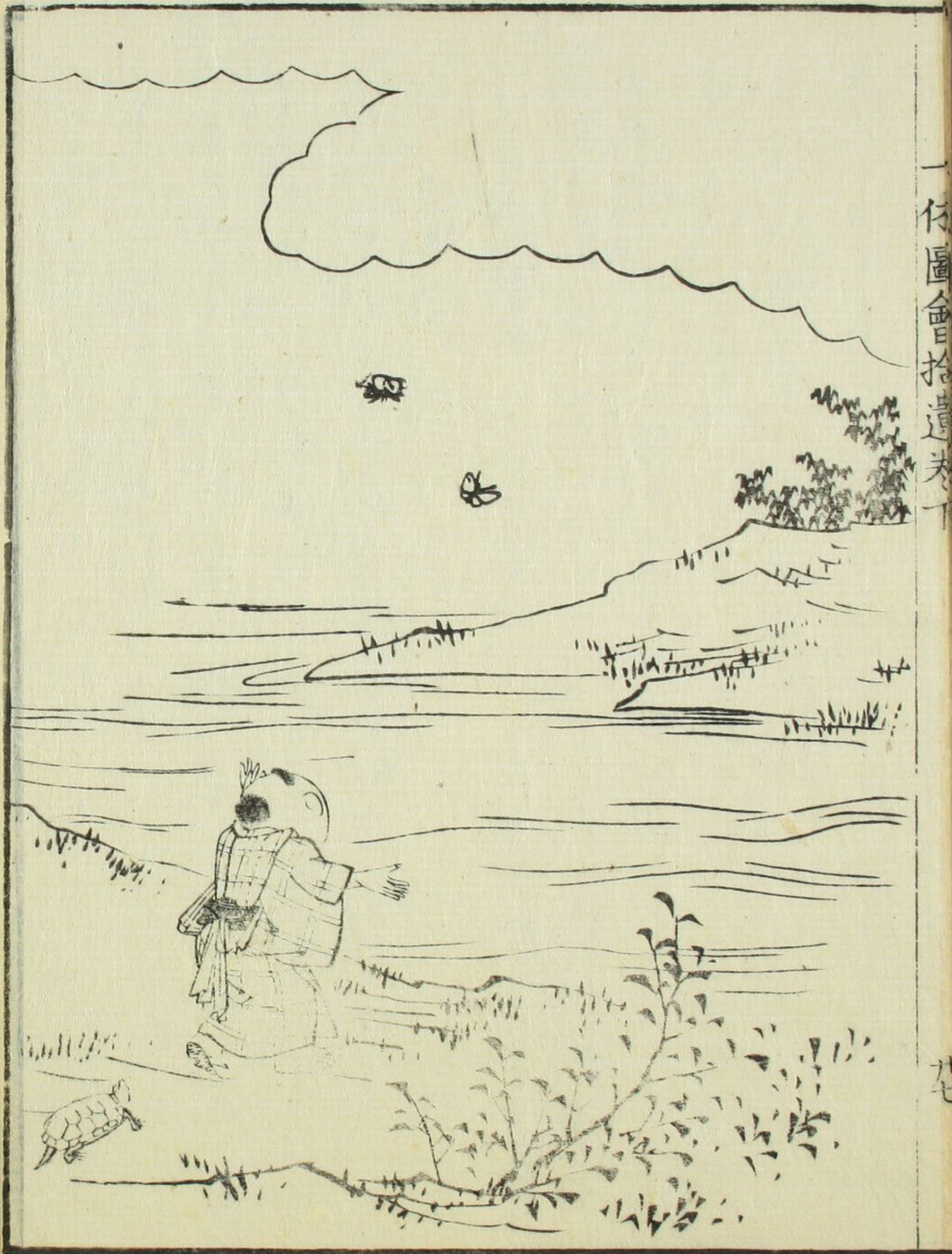
半のあまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

半のあまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

あまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

あまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの

あまのうの澤ま九糸のまらげふはらまら大あまの



二つもの

あつち
あつち
あつち
あつち

あつち
あつち
あつち
あつち



一休
印

おのろくどいもほく向うといた天竺の狸うしひ前
 後志しぬんをいしてばやく漢に抄くむく荆の
 まがまうとちり又ちおふ敵しころのらうとこ入て
 ちかかあうらばあぬしとちりさ度ほ度ち入してこれを
 一極の極理しりすは是れ柳のこころ花のこころ
 のころちかうけ極さうははる入根平をおかりまを
 志しんぐらかり又さけりまい
 前がうらうと入右刻うら例さあうらう人うら
 人さやとゆかかくや身をそとそとそとそとそと
 月るくちやうら我う一ふら美法の知うそん所さ
 ころもさういおふらうまめとめいさうと天うわわい地
 ふほりあうまがたなたさう柳下やんくくくくくくく

おふは男一ふとらんども太玉のさう石土志を抄と
 こまうら目さうらぬおのかりおとらん物くくくくくく
 地獄けとさちりまゆいんゆわく也
 本有系成の事一あんのの柳の縁をりくくゆい
 とんの流生とかりるさやあ者らうらうくくくくく
 根平のを念とちおの柳かろと流生のさう縁くくくく
 かやうふらうらん若菜とゆわ所とかりすあていさう
 をとらぬし男さうらあうい本あのか性くくくく
 けとさく程くくくくくくくくくくくくくくくく
 根あうらうらうらうらう

ちりきの後らう新かさうくかまが奴れはもれこの
 さうらうけくくくくくくくくくくくくくくくく

多き眼ぢんふ我かゝりて一味平等のともありあり
 若別あまんやゆゑ奴もな我もな上下ろそ外
 他もろ生もて解かすや大さけのゆゑ
 いうらうあま地獄とあめなれ年月と終てまゝして
 中なるるハ眼利こそ地獄と申又よゆ事ハ地獄
 くらねこそちこしくなり多相多難しくいづゝ眼光
 後代すまゝとては智あましく種々の知とけ
 大利をすすあましくあましくい
 こらんうけざるまゝといふあましくわのりて山負大魚を吞
 又かきそのりつん大魚中魚とのむけ心もあまの怖り
 とあまきふ大なる魚くらゐまきこゝろむこゝろにの
 からざるこそ山さなる魚の大なるものむけりてらるり

けあらん諸家とあましく知す縁家の大車なる有と申んを
 在ふある事とゆゑ縁から又まなる事と申んをわふ
 なが事とゆゑんをかくまは推のまをわらうてり
 為なり四理りなははあましくつゝな
 まんまのこゝろと申ん事の人かまの事らつゝ
 くの地の方ふと申ん事らつゝ申ん事らつゝ
 とあつとこゝろと申ん事らつゝ申ん事らつゝ
 川の室たう一つと申ん事らつゝ申ん事らつゝ
 多性りらうと申ん事らつゝ申ん事らつゝ
 務家はとありやうのまろし別大車なる
 大車のなんじんあましく備えを印する大車なる
 類別まろあましくあましくあましくあましくあましく



九國函

雅喬 謹 圖

ちあひ百八がんまうのまづみな珠救とつまじり二世
 こをといのり生まさうなまさうのもろくそつえいぐい不塔
 平助は女小まきくのありとかりい梓おうけく死人と
 多集をかす事をつしと地とあかりとらくくの
 教と後くくの石理とまひゆがらうまう地どうけ
 弟理とそしきつとくわうりくのこく竹のうらより
 天とけうろおのまきとせとくつしとあづらうび和方北西
 東方地東多代獄と多集系津北津とけんどんと
 きうせしとあつと又志りも外の大ささんまいしと
 大まきたのうらあありたつ西並の志ひさうとまじらう
 念とまろく志つもきとび是と毎かしのさうとまじ
 かしと我れとらうと下美民仏后と後小車一何家り

ちうとくまきとくまきとくまきとくまきとくまきと
 地獄とくまきとくまきとくまきとくまきとくまきと
 けしとくまきとくまきとくまきとくまきとくまきと
 達戸大師とくまきとくまきとくまきとくまきとくまきと
 地獄とくまきとくまきとくまきとくまきとくまきと
 小かると事とくまきとくまきとくまきとくまきとくまきと
 事とくまきとくまきとくまきとくまきとくまきとくまきと
 地獄とくまきとくまきとくまきとくまきとくまきとくまきと
 あつと又同地獄とくまきとくまきとくまきとくまきとくまきと

楽浄土とて非あべくはぬらぬ中のさあせと神あま
 せなさら浄土なるとそまへ神と成生と成とる事
 かしきひの成生けとんあんなら我本心とてなと事一を
 えしれ一念あの一又いむううく地獄とあつたうこの
 と毒とをくして心あにふのちんのう舞うかうこれ利
 地獄かう佛とりのまこととるまあちかたれまほはるを
 わの本心とさう入とすありし佛と多つらさうあはれを
 我人のかゝ別ふはなと事とよく心ねくけを帯く
 うらうけけ西入あふるく西あううらん事うこい
 あるくけけ現在の軍をんくさも事とあると四
 ととねいこの心と今あうと成心無道とくうふ
 まんまうててて事の心あうとわかや一りの事一も

今けしきとそんをうけいげ又その心をあまへし
 人よせとらふまきとの事なり仏とるふんまははとけ
 こしとまもえあうう事ありつるを縁のら成生
 ながしとてうらげつる成生をわつる事ありし
 こころさうさう神とるをわしは成生のううめんあう
 かんともさるる善悪のころをうかうかあうの成生定の
 業とらうとわいあうの成生とを神とるううらばは
 のさ無縁成生の大も事神の成生成生とる成生
 うまねくはらあむの業因とてうう成生とる
 善悪しんの縁成生のもあうまね成生とる成生とる
 うらあ和んうの心とてまうとてうけまてう
 う成生とあうまうとてうかう成生とるうの成生とる

くまはるかたはるまもふれおせの忍みん
あまのりこのあまのりをまうくせうと
はるまをゆゑる人このあまのりをまうく
はるまをゆゑる人このあまのりをまうく
はるまをゆゑる人このあまのりをまうく
はるまをゆゑる人このあまのりをまうく
はるまをゆゑる人このあまのりをまうく
はるまをゆゑる人このあまのりをまうく
はるまをゆゑる人このあまのりをまうく
はるまをゆゑる人このあまのりをまうく
はるまをゆゑる人このあまのりをまうく



皇漢歐諸書籍製本設兌

京都

尚書堂

辻本定治郎

三條通柳馬場東入

寺町通三條上ル

尚古堂

辻本九兵衛

書肆

尚書堂

辻本信太郎

大坂北本町四丁目

